

M O N T H L Y **vol.27** U P



Webも印刷もおまかせ、
進化するデジタルカメラ。

言葉では言い表せない光景も、 撮ってすぐ確認できる。 メモ帳代わりに使えるカメラ。

より多くの情報を伝えることができる写真。

これまで銀塩カメラが、100年以上かかって築いてきた
フォトスタイルに、新しいスタンダードが生まれつつあります。



印刷に使う写真撮影においても、主役の座をとって変わりつつあるデジタルカメラ。販売数は、ここ数年で急激に増加しています。そもそもデジタルカメラの歴史は、1981年に発表されたフロッピーに画像を記録する「マビカ」(SONY)から始まったと言われています。以降、各社から多数の機種が発売され、銀塩カメラの画質に近づけるべく改良・研究が重ねられてきましたが、本当の意味でデジタルカメラが一般的になったのは1995年、「QV-10」(CASIO)の発売から。このモデルは25万画素ながらWindows95のブームも重なり、パソコンの画像入力機器として普及しました。特に画期的だったのは、液晶モニターの採用です。撮った写真をすぐ確認できるため、デジタルカメラならではのフォトスタイルを確立することになります。その後、液晶モニターは画素数の増加、ズームなどの機能の充実と合わせて、ほとんどの機種に採用されるようになりました。

撮ってすぐ鑑賞でき、不要になればすぐ消去することができる。フィルム代、現像代がいらぬランニングコストの良さ。デジタルカメラはこれらの要素により、メモを取る感覚で手軽にシャッターを押せるアイテムになりました。それ単体でもサイクルは完結してはいますが、撮影した画像がデジタルデータであるというアドバンテージを活かすことで、使用範囲がさらに広がります。画像をメールで送ったり、パソコンで加工したり...、特にメディアとの優れた親和性は印刷や

Webといった媒体に多大なメリットをもたらしました。

たとえば印刷物なら、現在9割近くがDTPというデジタル環境で制作されているため、写真を使用する場合、フィルムやプリントをスキャナでデジタルデータにする必要があります。しかし、撮影した画像がすでにデータの状態になっているデジタルカメラなら、その手間がなく写真ソースとして合理的。だから、即時性が求められる新聞などの報道分野では、ますますデジタルカメラの普及が進むことでしょう。もっとも合理性もさることながら、より重要な要素のひとつとして、その美しさがあります。画質の良さは画素数だけでは語れませんが、解像度も重要な要素のひとつ。現在発売されているハイエンドのプロ用デジタルカメラには、2,000万画素近くを誇るモデルもあり、銀塩カメラの画質と比べても遜色がないレベルです。

またデジタルである利点は、保存するという点でも見逃せないものがあります。劣化の恐れがあるプリントやフィルムと違い、データなら劣化しないばかりか保存場所もスペースをとらず、検索性にも優れているためです。

今回、新しい可能性を秘めたデジタルカメラについて紹介しましたが、もちろん銀塩カメラにも優れた特長があります。ケースに応じて使い分けられるのも良いかもしれません。さてこのマンスリーアップに使われている写真は、どちらのカメラで撮られたものだと思いますか？





<http://www.sezax.co.jp>

本社・工場	〒146-0091 大田区鶴の木2-9-7	TEL03(3758)2511(代)	FAX03(3758)2754	
		営業専用	FAX03(3758)2544	
渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F	TEL03(3400)9211(代)	FAX03(3409)7315	
		5F	TEL03(3400)9401(代)	FAX03(5468)9253
マニュアル企画部	〒146-0091 大田区鶴の木2-9-7	TEL03(3758)2591(代)	FAX03(5482)2777	
下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	TEL03(3758)2511(代)	FAX03(3758)8850	

株式会社セザックスクリエイティブ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL03(3409)4970(代) FAX03(3409)2732

株式会社セザックスインターナショナル

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL03(3409)0527(代) FAX03(3409)6610



この小冊子には環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

この小冊子は再生紙を使用しています。